

開催館名 横浜みなと博物館

企画展名 絵本でたのしむ 海と船

開催期間：平成30年10月20日（土）～平成30年12月9日（日）



戦後に出版された海、船の絵本と原画



「海と船の絵本コンテスト」応募作品



コンテナくんの絵本ワークショップ
ワークショップの題材の帆船日本丸に色を
塗る参加者



海と船の絵本のおはなし会
海と船の絵本の読み聞かせ

【企画展の内容・目的】

■明治以降日本で出版された海、船の絵本に焦点を当て、絵本の中に描かれる海、船の姿から、子どもたちと海、船の関わりについて紹介しました。その時代ごとの代表的な海、船の絵本を紹介することで、子どもたちが見ていた海、船を認識し、海、船について考える機会としました。

■海事思想の普及に積極的に活動している船の絵本作家を講師に招いたワークショップで、帆船日本丸をテーマにした絵本を製作しました。幅広い年代の参加者が、船、海の面白さを絵本の製作から学んでいました。子どもたちにとって、絵本という身近な題材で海、船について親しめる機会としました。

■絵本コンテストは応募者が作品を作り上げる過程で海、船について深く考え、完成させた絵本は読者に大きな感動と、海と船への親しみを与えていました。

1. 企画展示の内容

- 開催期間：平成30年10月20日（土）～平成30年12月9日（土）
- 開催場所：横浜みなと博物館特別展示室
- 入場者数：5,885人



横浜みなと博物館 外観



企画展会場 入口



近代的な絵本の出版が始まった明治初期からの海、船の絵本



戦時色の濃い、戦時中の海、船の絵本。海軍をテーマにしたものが多い

最初のコーナー「時代を映す海・船の絵本」では、近代的な絵本の出版が始まった明治時代から終戦までと、自由で民主的な社会の中で現在につながる絵本表現が生まれた戦後から現在までの2つのコーナーに分けて展示をしました。

「明治時代から太平洋戦争までの海・船の絵本」では、開国以降近代化の過程の中で蒸気船に代表される科学技術の発展に絵本がどのような役割を負ったかについて言及しました。また、日本船による世界一周航路開設など、最新の情報を伝えるメディアとしての絵本の役割についても紹介しました。

戦時下で出版された絵本は軍事体制の影響が濃く、特に太平洋戦争の時期に出版された絵本に海軍を扱ったものが非常に多いことから、当時の子どもたちが見ていた海、船の姿をうかがい知ることができました。

戦前戦後の絵本はその表現の仕方に非常に差があるため、来館者はそれぞれのコーナーの絵本を見比べることで、海、船の役割の変化を見て取ることができました。



戦後の海、船の絵本と原画。内容、色彩、技法など自由で明るい雰囲気絵本が多い



船の絵本の第一人者である柳原良平の絵本『貨物船の話』の原画

2つ目の「戦後から現在までの海、船の絵本」のコーナーでは、戦争の影響がなくなり、自由で多彩な表現の元で出版された絵本を紹介しました。特に、船の絵本の第一人者である柳原良平の絵本とその原画は、当館ならではの展示品と言えます。柳原良平以外にも、斬新な表現で海を描いた洋画家丸木俊、フェリーターミナルの役割や船旅の楽しさを描いた石橋真樹子、地味な存在である内航貨物船に焦点を当てた谷川夏樹の原画を展示し、様々な表現、視点から描かれた海、船を子どもたちに提示することができました。一方で、海、船をテーマにした絵本が少なくなり、子どもたちにとって海、船が身近なものになりにくくなっていることを指摘し、絵本を通じて海、船に興味を持ってもらう必要性を訴えました。

このコーナーでは、現在まで読み継がれているベストセラーを、実際に手にとって読めるコーナーを設け、かこさとし、いわさきちひろ、五味太郎など様々な作家の海、船の絵本に親しむことができました。



「海と船の絵本コンテスト」全応募作品 39 点



「海と船の絵本コンテスト」入賞作品。最優秀賞は原画も展示

3つ目のコーナーは、関連事業「海と船の絵本コンテスト」全応募作品を展示しました。北海道から九州まで、全国から幅広い年齢層の方から応募がありました。どの作品も、それぞれの視点で海、船について考え、個性的な物語が多数応募されていました。

審査委員長からは「海の今を考えさせる作品やグローバルな視点で子供たちに海を見せようとする心のこもった作品が多く嬉しい限りでした。」という海と船の重要性についてコメントを頂きました。海の生き物や、港の施設、様々な船など多彩なテーマの絵本は、来館者の大きな関心を呼んでいました。企画展で最も人気のあったコーナーです。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



絵本の中に入れる巨大絵本コーナー。『しょうぼうていしゅつどうせよ』の登場人物になれる

絵本を読むことができるコーナー

最後のコーナー「みんなで楽しむ海・船の絵本」では、展示室内に幅7mの巨大絵本をつくり、来館者が絵本の中に入ってその世界楽しめるようにしました。えらんだ絵本は柳原良平の代表作『しょうぼうてい しゅつどうせよ』で、貨物船と消防艇が並ぶクライマックスシーンに、実際に登場人物（消防士）になって入ることができるようにしました。このコーナーは写真撮影を許可して、SNSなどへの投稿ができるようにしました。

また、座って絵本が読めるスペースを設け、現在出版されている海、船の絵本を書架に配置しました。絵本は乳児から小学校低学年まで、それぞれの年代に向けた絵本をバランスよく選書し、できるだけ多くの子どもたちに絵本に触れてもらえるような作りとしました。来館された親子連れの多くが、このコーナーで絵本を読み聞かせて楽しんでいました。

【来館者の声】

○絵本の世界、絵は時代を感じますが、船と海を愛する気持ちは昔も今も変わらないと思います。

○海は人間生活にとって切ってもきれないものであることが展示を通じて強く感じます

○さまざまな目線で船や海を取り巻く世界や心が学べたことです

○子供の成長に向けて、広い海とその向こうの世界に目を向けるようになってほしいと感じられました

○海の尊さ、貴さ、ありがたさ、まだまだ知らないことが多い、深い、すばらしい。神様からの贈り物だと。もっと世界中で共有して大切にしていけたら、と思いました。とても感動し勉強になりました

2. 関連事業の内容

■海と船の絵本コンテスト

【開催日時】 募集期間：平成30年6月1日（金）～9月2日（日）
表彰式：平成30年10月19日（金）

【開催場所】 日本丸訓練センター、横浜みなと博物館

【参加者数】 39点（47名）

【実施内容・目的】

- 一般から海、船をテーマにしたオリジナルの絵本作品を募集しました。絵本を作る中で、海、船について知り、考えることで、海と船を一層身近なものに感じてもらうことを目的としました。
- 応募作品は審査会を経て、最優秀賞1点、横浜みなと博物館館長賞1点、佳作3点が選ばれました。最優秀作品は横浜みなと博物館から出版し、横浜市内の全公立小学校、幼稚園、博物館近隣の保育園、保育施設、神奈川県内、東京都内の全図書館に寄贈しました。未就学児、小学生をはじめ、多くの人が海について考えるきっかけになりました。



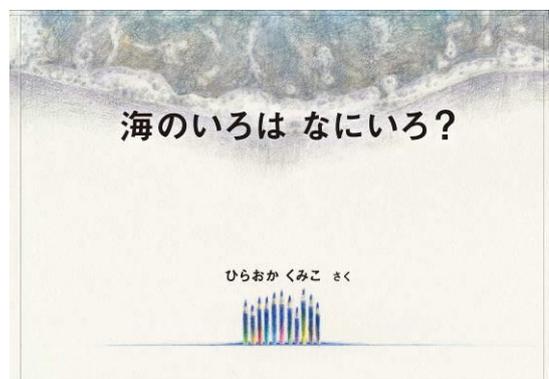
「海と船の絵本コンテスト」審査会会場



「海と船の絵本コンテスト」審査風景



「海と船の絵本コンテスト」表彰式



最優秀賞『海のいろは なにいろ?』

「海と船の絵本コンテスト」は約3か月の募集期間で、全国から39点の応募がありました。「海・船」というテーマは、簡潔でありながら、様々な物語を生み出せるテーマであり、応募者の描く海、船の多彩さに驚きました。

審査会は9月17日に実施しました。審査委員長は横浜在住の絵本作家ヒサクニヒコ氏に依頼しました。同氏は海、船の絵本も出版され、昨今の子どもたちの海離れに危機感を抱かれており、今回のコンテストが子どもたちに海を知ってもらおうきっかけとなるよう大きな期待を寄せられていました。審査員は他にこぐま社編集長として絵本づくりの最前線に立ち続けている関谷裕子氏、大学で美術の観点から絵本作りを指導し、絵本作りのワークショップ等も開催されている横浜美術大学准教授の宮崎詞美氏に依頼しました。また横浜みなと博物館館長の青木治が加わりました。

審査会は審査員各氏に全ての応募作品を読んでいただき、投票と協議により最も優れた作品1点に最優秀賞、教育的な視点から海、船を描き最も優れた作品に横浜みなと博物館館長賞、次に優れた作品3点に佳作が授与されました。力作ぞろいの応募作品に、審査員全員からレベルの高いコンテストであるとお褒めの言葉をいただきました。

審査会の最後に審査委員から各受賞作品へのコメント、審査委員長のヒサ氏からコンテスト全体へのコメントをいただき審査会は終了としました。コンテスト結果は、翌日すぐにマスコミへ公開し、企画展へつながる広報としました。

企画展オープン前日には、受賞者全員を招いて、表彰式及びマスコミ向けの企画展内覧会を行いました。審査委員長のヒサ氏にご出席いただき、コンテストを総括するご挨拶をいただきました。受賞者の皆さんには表彰状と各副賞をお渡ししました。皆さんとても感激されていたようです。

当日はマスコミの取材も多く、特に最優秀賞受賞者の平岡氏には多くの取材依頼があり、好意的な記事が各紙に掲載されました。

【来館者の声】

- 「ぼらーどぼーくん」に出てくる船柱のように海には縁の下の力持ち的な様々なものがあることがわかりました
- 絵本コンテスト。見る人によって、考え方、感じ方がぜんぜんちがうのだなと思った。どれも海や船の良さが伝わるものだった
- 色々な視点で描かれた海は新鮮でした
- 絵本コンテストが素敵でした。力作ぞろいで平岡さんの繊細な色エンピツと変化する海の色的美しさに共感して感動しました。また是非第2弾コンテスト実施してください

■コンテナくんの絵本ワークショップ

【開催日時】平成30年11月4日(日) 14:00 ~ 15:30

【開催場所】日本丸訓練センター

【参加者数】54人

【実施内容・目的】

●絵本「かもつせんのいちにち」作者の谷川夏樹氏を講師に招き、1冊の絵本ができるまでの過程をお話しいただいたあと、子どもたちと1冊の絵本を製作しました。

●製作した絵本のテーマは当館と同じ敷地内で保存されている帆船日本丸の航海でした子どもたちは目の前にある帆船日本丸の歴史について知り、それぞれの感性で絵を描き、1つの絵本が完成しました。製作した絵本は当館ウェブサイトで公開しました。



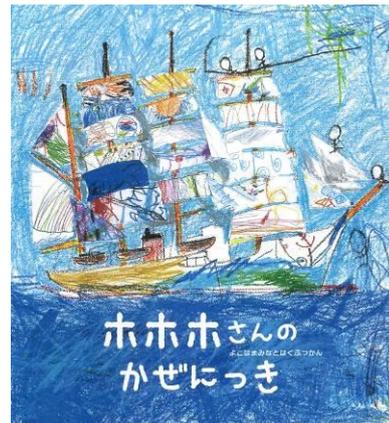
ワークショップ受付



講師から、貨物船船長の子どもたちへのメッセージを紹介



絵本の表紙になる帆船日本丸の絵を参加者みんなで色塗り



完成した絵本「ホホホさんのかぜにつき」

冒頭で谷川氏から自己紹介とともに、絵本の作り方について説明がありました。谷川氏はコンテナをテーマにした絵本を出版されているため、子どもたちから「コンテナくん」と呼ばれ親しまれています。説明の中で、谷川氏とツイッターを通じて交流のある貨物船船長から子どもたちに向けて船の面白さを語りかける動画を流しました。

担当学芸員から帆船日本丸について説明しました。今回のワークショップでは、参加者1名につき、1日分の航海日誌を渡し、その日の風を様々な色や線で表現しました。

1名ずつが描いた作品が絵本の1ページになりました。最後にそれぞれの描いた絵をコピーし、谷川氏の描いた日本丸の絵にコラージュをしました。

風を受ける帆というものがイメージしにくいため、教室に扇風機を準備し、日本丸で実際に使用している帆布に風を受けて膨らませたり、子どもたちに帆布を触らせたりしました。また、谷川氏から「まず風の音を言葉で口に出してみよう。書いてみよう。」とうながされると、子どもたちは「ひゅー」や「すい〜」など、実際に自分が風や帆になった気持ちで様々な風の音を聞かせてくれました。風のイメージができた後は、保護者や谷川氏との対話の中で日本丸の航海を絵にしていました。

こちらが考えるよりずっと子どもたちのイメージは豊かで、これまで見たこともないカラフルな風の色、自由で楽しいイメージの日本丸の航海の様子が絵になりました。子どもたちの生き生きとした様子に谷川氏をはじめ私たち博物館もとても嬉しく、海に親しんでもらう時に絵本はとても有効な方法だと実感しました。

【来館者の声】

○海と船とそこで生活する人たちの息吹を感じました

○人間の力でコントロールできない偉大な存在であるということを感じました。一人一人が海を大切にする気持ちを持ちたいと思いました

○横浜の船長さんが石垣島でお仕事していたり、日本丸がハワイまで行っていたこと初めて知りました。89歳というのも初めて知りました。尊敬しました

■海と船の絵本のおはなし会

【開催日時】平成30年10月20日(土)、27日(土)、11月3日(土・祝)、11月10日(土)、17日(土)、24日(土)、12月1日(土)、8日(土) 14:00~14:30

【開催場所】横浜みなと博物館特別展示室

【参加者数】166人

【実施内容・目的】

●海・船の絵本の読み聞かせ会を会期中毎週土曜日に実施しました。文字の読めない小さな子どもたちにも海、船の絵本に親しんでもらう機会となりました。

●横浜市中央図書館、横浜市内で活動しているボランティア団体に協力していただき、選書や読み聞かせの方法などそれぞれの個性があふれる会となりました。



おはなし会の最初に学芸員から、行事の趣旨を説明



ボランティア団体「おはなしクーゲル」による読み聞かせ



横浜市中央図書館職員による読み聞かせ



ボランティア団体「水曜会」による読み聞かせ

おはなし会の時間になると、特別展示室に子どもたちが集まってきます。おはなし会の時間に合わせて来館する子どもたちもいますが、偶然通りかかって参加してくれる子どもたちも多くいました。最初に学芸員から、海と船の絵本の読み聞かせ会であることを説明します。その後、普段から横浜市内で読み聞かせを行っているボランティアに交替し、絵本の読み聞かせをします。1回のおはなし会で読む本は3~4冊で、子どもたちのリクエストで冊数をふやすこともありました。読む絵本は「ボクらねにのる」、「うみのカラオケ」、「うらしまたろう」、

「シロナガスクジラ」などさまざまなジャンルの絵本をボランティアと相談しながら決めていきました。

最初は緊張した表情の子もいましたが、お話が始まると集中し、乗り出すように絵本を見ていた姿が印象的でした。コミカルな内容の絵本の時には大笑いしたり、『チムとゆうかなせんちょうさん』など海での冒険が内容の絵本では、場面の移り変わりに合わせて表情が変わっていく子どもたちがたくさんいました。

また一緒に参加していた保護者とも、感想を言い合いながらおはなし会の後も絵本コーナーで絵本を楽しんでいる参加者が見受けられました。

絵本は誰かに読んでもらうことで新しい魅力が生まれ、子どもたちにとって、より引きつけられるものとなります。海、船の絵本に出会い、海、船に親しむきっかけを博物館が提供できたことを実感する行事となりました。

【来館者の声】 ※アンケートは実施しませんでした。参加者からのコメントです。

- 船の絵本はたくさん読んでやっていたつもりだったけど、知らない船の絵本をたくさん読んでもらえてうれしかった（30代女性、子連れ）
- シロナガスクジラについて、もっと知りたくなった。帰りに図書館に行ってみる（未就学児の男の子）
- 手遊びや簡単な童謡も読み聞かせと一緒にしてくれたので、子どもが飽きなくて良かった（40代女性、子連れ）

■学芸員による展示解説（フロアガイド）

【開催日時】平成30年11月23日（金・祝）、12月9日（日）

①11:00～ ②14:00～

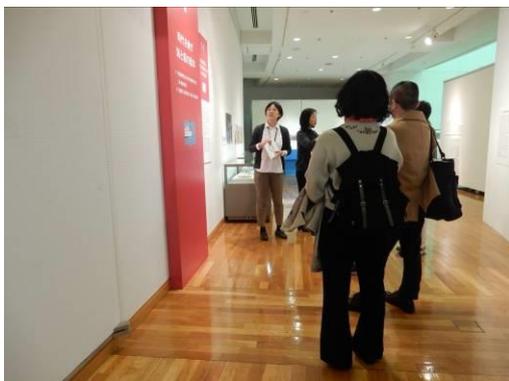
【開催場所】横浜みなと博物館特別展示室

【参加者数】33人

【実施内容・目的】

●企画展の趣旨である、絵本を通して子どもたちが見た海、船について直接来館者に解説しました。また絵本が子どもたちに海、船について知ってもらう有用なツールであることを説明し、大人から子どもたちが絵本、そして海、船について触れることができるよう大人の役割を話しました。

●展示資料1点ずつが持つそれぞれの面白さを解説しました。パネルやキャプションだけでは伝わらない資料、そして海、船の魅力が伝わるよう説明を行いました。



会場の特別展示室入口で企画展の趣旨を説明



明治初期に出版された絵本に「蒸気船」が描かれていることを説明

まず、近代に入り最初に出された絵本に「蒸気船」が描かれていることを説明しました。当時の子ども向け出版物には、富国強兵を目指して科学的知識を子どもたちに与えるという側面があり、その代表的な例として船が挙げられていることに参加者は驚いた表情でした。また日清・日露戦争から太平洋戦争まで、戦争が絵本の内容、表現に大きな影響を与えていたことを説明すると参加者の皆さんは難しい表情をされていました。



柳原良平の絵本とその原画について説明



かこさとしの絵本「海」を例に、戦後の絵本作りについて説明

後半の戦後に出版された絵本のコーナーでは、戦前とうって変わった多彩で、豊かな表現の絵本が出版されたことを説明しました。特に戦後の絵本の中心的存在である「こどものとも」で柳原良平が出した絵本「たぐぼーとのいちにち」の原画は、斬新なデザインを絵本の世界に提示し、その後柳原は船の絵本の第一人者となりました。参加者の皆さんも知っている絵本が多くなり、絵本の感想を述べられたりしながら参加していました。

フロアガイドの参加者は大人ばかりでしたが、解説に登場した絵本を実際に手に取って読んでみたり、子どもや孫に紹介したいとタイトルをメモしたりする姿がよく見られ、この解説を通して海と船の重要性を認識してもらえたと思います。

【来館者の声】 ※アンケートは実施しませんでした。参加者からのコメントです。

○戦争前と後で海の描かれ方が違うのがとても面白かった。戦争中に自分も読んでいた本があって感慨深かった（高齢の男性）

○柳原良平さんの「たぐぼーとのいちにち」はとても子ども向けとは思えないデザインですばらしかった。こういう絵本で船のことを学べる子どもたちは幸せだね（70歳くらいの男性）

【事業全体のまとめ】

本企画展は、明治期から現在までに出版された海、船の絵本を通じて、子どもたちが見ていた海と船について考えた。また、絵本を通じて、今の子どもたち、そして子どもたちと一緒に来館する大人達にも、絵本という非常に身近で敷居の低い題材から海、船について知り、親しみ、考えてもらうという趣旨を持っている。実際にそれぞれの時代ごとに、社会情勢が顕著に表れた絵本を読むことで、子ども達が見ていた海、船を知り、現在の海、船についても興味関心を引き起こせたのではないかと思う。入館者、付帯事業参加者からは「海は大切なもので汚さないように自分ができることをしよう」「海の楽しさや美しさを感じられました」「海は人間にとって切りはなせない大切なものであると感じました」「さまざまな目線で船や海を取り巻く世界や心が学べた」「海、船の働きについて、子どもたちに知ってもらいたい」など海、船の大切さについての感想が多く寄せられ、「海の学び」への手ごたえを感じた。

「海と船の絵本コンテスト」は当館としては初めての試みで、募集や審査など全てが手探りだったが、全国からたくさんの応募をいただくことができた。応募者、読者のどちらもが、絵本を通して海、船に親しむことができたと思う。また東京都、横浜市の図書館、横浜市内の全小学校、全幼稚園、近隣の保育園・保育施設と、限られた範囲ではあるがコンテスト最優秀作品の絵本を子どもたちの手元に届けられたことで、「海の学び」を十分に達成できたと考えている。

絵本ワークショップの講師は絵本作家谷川夏樹氏に依頼できた。SNS を通じて海、船、特に内航貨物船について積極的に発信され、子どもたちに絵本から海、船について知ってほしいという気持ちを強くお持ちの方だったので、今回の企画展にふさわしい人選だったと思う。講師の提案で当初の予定になかった、ワークショップで子どもたちが描いた絵を絵本にすることができたのも望外の喜びだった。

絵本を展示する場合、ほとんどケースの中に収められるため、来館者は絵本を読むことができない。今回はできるだけ多くの絵本を実際に手に取って読んでもらえるよう、新しく絵本を購入し、書架、展示台などを多く配置した。これは来館者に非常に好評だった。また、子どもたちが実際に絵本の中に入り、その世界を体験できる大型絵本の設置もできた。これらはとても経費がかかる展示であり、「海の学びミュージアムサポート」の助成を受けることではじめて実現できた。来館者それぞれが、絵本という小さな題材ではあるが、そこから海、船について思いを寄せてもらえたことを強く実感できる企画展だった。

反省としては、併設の帆船日本丸が長期休館に入ったとは言え、入館者数が伸び悩み、広報の不足を感じた。

また、絵本コンテスト実施やワークショップ講師の選定などに時間を取られ、資料調査に多くの時間を割けなかった。関西方面からの借用予定の資料を他の資料に変更したため、特に明治期の資料が若干手薄になってしまった。コンテストなど長期にわたって行う事業は、事業の期間などをよく検討するべきだと思った。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 横浜中央図書館	資料の貸し出し、おはなし会への職員派遣
2. おはなしクーゲル	おはなし会への協力
3. 水曜会	おはなし会への協力
4. こぐま社	絵本コンテスト審査員
5. 横浜美術大学	絵本コンテスト審査員の派遣
6. 福音館書店	資料の貸し出し等に協力、ワークショップへの社員派遣と協力
7. 横浜市教育委員会	絵本コンテスト最優秀作品の全小学校寄贈へ協力
8. 国立国会図書館子ども図書館はじめ各所蔵者	資料の貸し出し

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 公募ガイド	7月1日 イチオシ! 海と船の絵本コンテスト
2. 神奈川新聞	7月9日 海や船テーマに絵本作品を募集 横浜みなと博物館が企画展
3. タウンニュース	10月18日 海と船の絵本コンテスト 全国から力作39点 みなと博物館企画展で公開
4. 日本経済新聞	10月16日 海と船の歴史 絵本で紹介
5. 日本海事新聞	10月19日 横浜みなと博物館 企画展「絵本でたのしむ海と船」開催へ
6. J:COM	10月26日 デイリーニュース
7. 朝日新聞	11月13日 絵本で知ろう 海と船の働き 横浜みなと博物館で企画展
8. FMヨコハマ	11月14日 「YOKOHAMA My Choice」 ※ラジオ

以上